2015 年に南西諸島で確認された淡水ガメの分布

嶋津信彦（しまづ外来魚研究所・兵庫県立長田高等学校生物部 OB）

はじめに

南西諸島は、九州南端から台湾北東にかけて位置する島嶼群である。南西諸島に分布する陸生･陸水生カメ類は、イシガメ科のクサガメ、ニホンイシガメ、ミナミイシガメ、セマルハコガメ、リュウキュウヤマガメ、ヌマガメ科のアカミミガメ、スッポン科のニホンスッポンの計 3 科 7 種が文献等で 35 島から報告されている。またイシガメ科では、交雑したと推定される個体も見つかっている。分布情報は、外来カメ類の定着、影響などを評価するために不可欠であるが、在来カメ類の分布域や鹿児島県の島嶼および大東諸島では近年の詳細な記録が不足している。本研究では、現地調査により南西諸島における陸生･陸水生カメ類の分布を明らかにした。

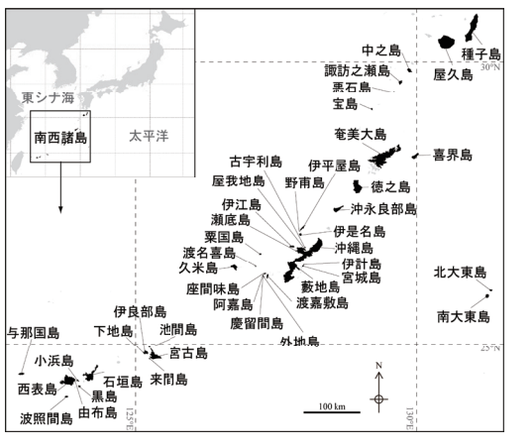

図 1. 2015 年に現地調査された南西諸島 43 島

材料と方法

2015 年 5-10 月に南西諸島 43 島で陸生･陸水生カメ類の分布を調査した（図 1）。カニ網による採集を主とし、カニ網設置地点と他の河川流程の各一部における手網または素手による採集、および調査･移動中、一部夜間早朝の山地などにおける踏査で目視により分布を確認した。カニ網では、誘引餌のサンマと溺死防止用のペットボトルをそれぞれ入れ、計 2,070 地点で原則各 1 回、1 個を午後に設置して翌日午前に回収した。確認された分布をそれぞれ基準地域メッシュ（日本測地系 2000）に同定し、図化した。

結果と考察

陸生･陸水生カメ類は、31 島 369 メッシュから延べ 2,031 個体が確認された。外来カメ類は、セマルハコガメとリュウキュウヤマガメを除く各種で、初記録も含め複数の成体や幼体が認められた島嶼があり、それぞれ定着や分布拡大が示唆される。クサガメとミナミイシガメが沖縄島北部、クサガメが石垣島から採集されており、これらの駆除とともに交雑・競争によるリュウキュウヤマガメとミナミイシガメの各在来個体群への影響について、詳細な調査が必要と考えられる（図 2）。

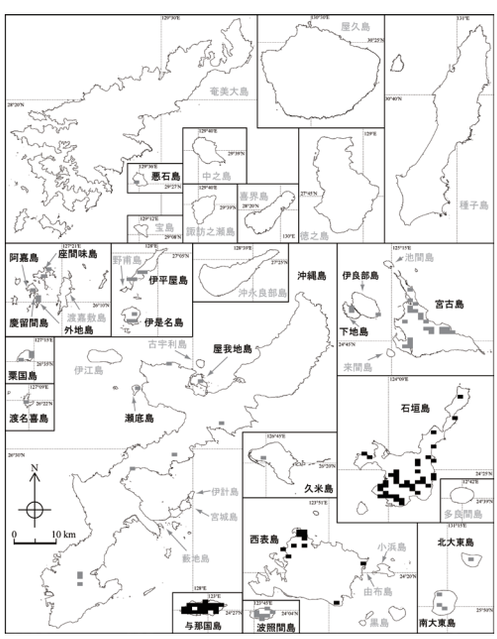

図 2. 2015 年に現地調査で確認された南西諸島におけるミナミイシガメの分布．自然分布域では■，域外では■で示す．本種は，22 島 135 メッシュから延べ 1,219 個体が確認された．

本研究は、一般財団法人沖縄美ら島財団の助成を受け行われました。